

令和2年5月29日

各位

公益社団法人 日本透析医会
会長 秋澤 忠男
新型コロナウイルス感染対策ワーキンググループ
委員長 菊地 勘

新型コロナウイルス感染対策合同委員会と日本臨床工学技士会の共同調査
～透析医療機器および个人防护具に関する現況調査～（お願い）

謹啓 初夏の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、平素より日本透析医会の運営にご理解ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会 新型コロナウイルス感染対策合同委員会（以下「合同委員会」という。）では、これまで新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の透析症例が発生した場合、合同委員会に報告いただく「透析患者における COVID-19 調査」を行い、毎週金曜日に各学会のホームページにおいて関係者に報告してまいりました。

今般、合同委員会では日本臨床工学技士会との共同調査として、「透析医療機器および个人防护具に関する現況調査」を行うことにいたしました。ご承知のように、維持透析患者においては、入院治療が必須であり、個室透析を必要とすることが多いこと、非透析患者においては、COVID-19 による急性腎不全を合併して、急性血液浄化を必要とすることから、各施設においては出張透析や個室透析用の透析装置や R0 装置、持続的血液濾過透析（CHDF）装置の不足の訴えが、合同委員会に届いております。

また、維持透析施設を含む透析現場では、平時より穿刺や返血では、个人防护具（PPE）の着用を推奨しておりますが、COVID-19 への対策では、透析室集団感染防止のために、より厳重な PPE の着用が必要となり、PPE を多く使用するため、PPE が不足しているとの声も多く聞かれます。

合同委員会と日本臨床工学技士会では、この透析医療機器の需要や PPE 不足の実態を把握して、今後の COVID-19 第2波に備えた対策を行うことは非常に重要と考えております。この共同調査の結果は、ホームページなどを通じて公開するとともに、この調査結果に基づき厚生労働省に対し働きかけを行い、急性血液浄化を行う基幹病院や全国の維持透析施設の COVID-19 対策に役立てたいと考えております。

つきましては、上記の内容についてご理解いただき、当共同調査にご協力いただきたくお願い申し上げます。

何卒ご協力お願い申し上げます。

敬 具

記

- ・下記の URL よりアクセスいただき、情報入力シートに記入して登録ください。
合同調査入力ホーム：<https://stopcovid19.jhat.jp/input>
- ・令和2年6月1日（月曜日）～6月15日（月曜日）までをお願いいたします。

以上